

特記仕様書

本特記仕様書は、日高川町が行う橋梁点検業務に適用する。なお、本業務の実施にあたっては「土木設計業務等共通仕様書」（和歌山県県土整備部 令和4年7月）に準拠する。

1 業務目的

本業務は、日高川町が管理する橋梁において、安全で円滑な交通を確保し、沿道や第三者への被害の防止を図るとともに橋梁の効率的な維持管理を目的として、現在の健全度を把握するため「道路橋定期点検要領（技術的助言）（令和6年3月）国土交通省道路局」に準じて行うものとする。

2 業務従事者

道路橋の定期点検を適正に行うために必要な知識及び技能を有するものがこれを行うものとする。

また、健全性の診断（部材単位の健全性の診断）において適切な評価を行うためには、定期点検を行うものが道路橋の構造や部材の状態の評価に必要な知識及び技能を有することとする。

よって、以下のいずれかの要件に該当することとする。

- ①道路橋に関する相応の資格または相当の実務経験を有すること。
- ②道路橋の設計、施工、管理に関する相当の専門知識を有すること。
- ③道路橋の点検に関する相当の技術と実務経験を有すること。

3 業務内容

（1）計画準備

本業務の目的、主旨を把握し、業務の実施方法、工程等について取りまとめた業務計画を立案し、監督員と協議するとともに業務に必要な資料収集を行うものとする。

1）業務計画書の作成

業務計画書及び詳細な橋梁毎の点検計画となる実施計画書の作成及び関連資料等の収集を行う。業務計画書の作成にあたっては、既存の定期点検（部材番号図を含む）の記録等を活用して実施するものとする。

2）現地踏査

定期点検に先立って現地踏査を行い、橋梁の変状（劣化・損傷等）程度を把握するほか、橋梁の立地環境、交通状況、交通規制の要否、近接手段等について現場の概況を調査して記録（写真撮影も含む）する。現地踏査にあたっては、既存の定期点検時に実施した協議資料等を活用して実施するものとする。

3）関係機関との協議資料作成

定期点検において必要な関係機関との協議資料、説明資料の作成及び必要な資料の収集を行う。これらの資料作成にあたっては、既存の定期点検時に実施した協議資料等を活用して実施するものとする。

(2) 定期点検

1) 状態の把握（点検）及び健全性の診断区分の決定（診断）

「定期点検要領」に基づき、橋梁点検車、あるいは梯子等を用いた近接目視により行い、点検時点での状態に関する情報を収集するとともに、上部構造、下部構造及び上下部接続部のそれぞれについて、活荷重、地震、豪雨・出水等の想定する状況における性能を推定し、特定事象の有無や必要な措置に対する技術的な見解などの根拠を踏まえ、施設単位毎に健全性の診断区分を決定する。

現地では、既存の定期点検及び健全性の診断結果の記録等を活用して作業を行う。

なお、重要な損傷を発見した場合には、即時に監督員に報告し対応を協議するものとする。

また、点検中にコンクリートの浮き等の第三者被害のおそれのある損傷を発見した場合は可能な限りたたき落とし等の応急処置を実施すること。

2) 点検記録様式の作成とその他記録の補完

点検結果及び診断結果について、定期点検要領の記録の手引きを参考に「様式1、様式2、様式3」及び町様式（別添参照）を作成し記録するものとする。作成作業は、既存の定期点検の点検表記録様式の電子データを活用して実施するものとする。なお、定期点検要領の付録に示す様式の電子データは国土交通省が公開する「道路橋記録様式」を参照するものとする。

※参考：国土交通省ホームページ内 「道路：道路の老朽化対策 - 国土交通省」

<https://www.mlit.go.jp/road/sisaku/yobohozen/yobohozen.html>

また、必要に応じて道路管理者が保有する橋梁台帳等の記載事項を補完するために、現地計測を行う。

(4) 報告書の作成

点検業務の成果として、作成した資料や定期点検の結果の記録等のとりまとめを行う。これらの報告書作成にあたっては、既存の定期点検の点検表記録様式の電子データ（表計算ソフト）を活用して実施するものとする。なお、作成した「様式1、様式2、様式3」のオリジナルデータについては、電子媒体でも納品することとする。

(5) 打合せ協議

打合せは、業務着手時、各作業の中で主要な区切りの時点及び成果品納入時に行うものとする。

なお、業務着手時及び成果品納入時には、原則として主任技術者が立ち会うものとする。

(a) 業務着手時

業務計画書をもとに、調査方法、内容等の打合せを行うとともに、橋梁点検に必要な資料等の貸与を行うものとする。

(b) 中間打合せ

現地踏査終了時あるいは現地での点検終了時の区切りにおいて、中間打ち合わせを1回行うことを標準とする。

(c) 成果品納入時

成果品のとりまとめが完了した時点で打合せを行うものとする。

なお、成果品納入時の打合せ時に今後の維持管理方法（維持管理手法及び補修優先順位等）の

相互理解を図るものとする。

(6) その他

本業務の実施に際し、疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議するものとする。

点検橋梁について、点検方法等の現場条件については別紙点検橋梁一覧表の通りとする。ただし、現地踏査等により点検手法が変更となる場合には、監督職員と協議すること。

また、点検は原則昼間作業とするが柚の木橋は迂回路が無いため夜間作業とする。

4 新技術の活用検討について

業務の実施に先立ち、業務計画書作成（実施方針の検討）の一部として新技術等の活用の検討を行い、その結果を所定様式により提出すること。検討の結果、新技術を活用する場合は、業務計画書にその旨を記載し提出すること。新技術の範囲については原則として「NETIS 登録技術」や「点検支援技術性能カタログ（案）」に掲載されている技術とする。なお、新技術等の活用に係る費用については「承諾」によるものとし、設計変更の対象外とする

5 成果品の内容

提出する成果品は下記の通りとする。

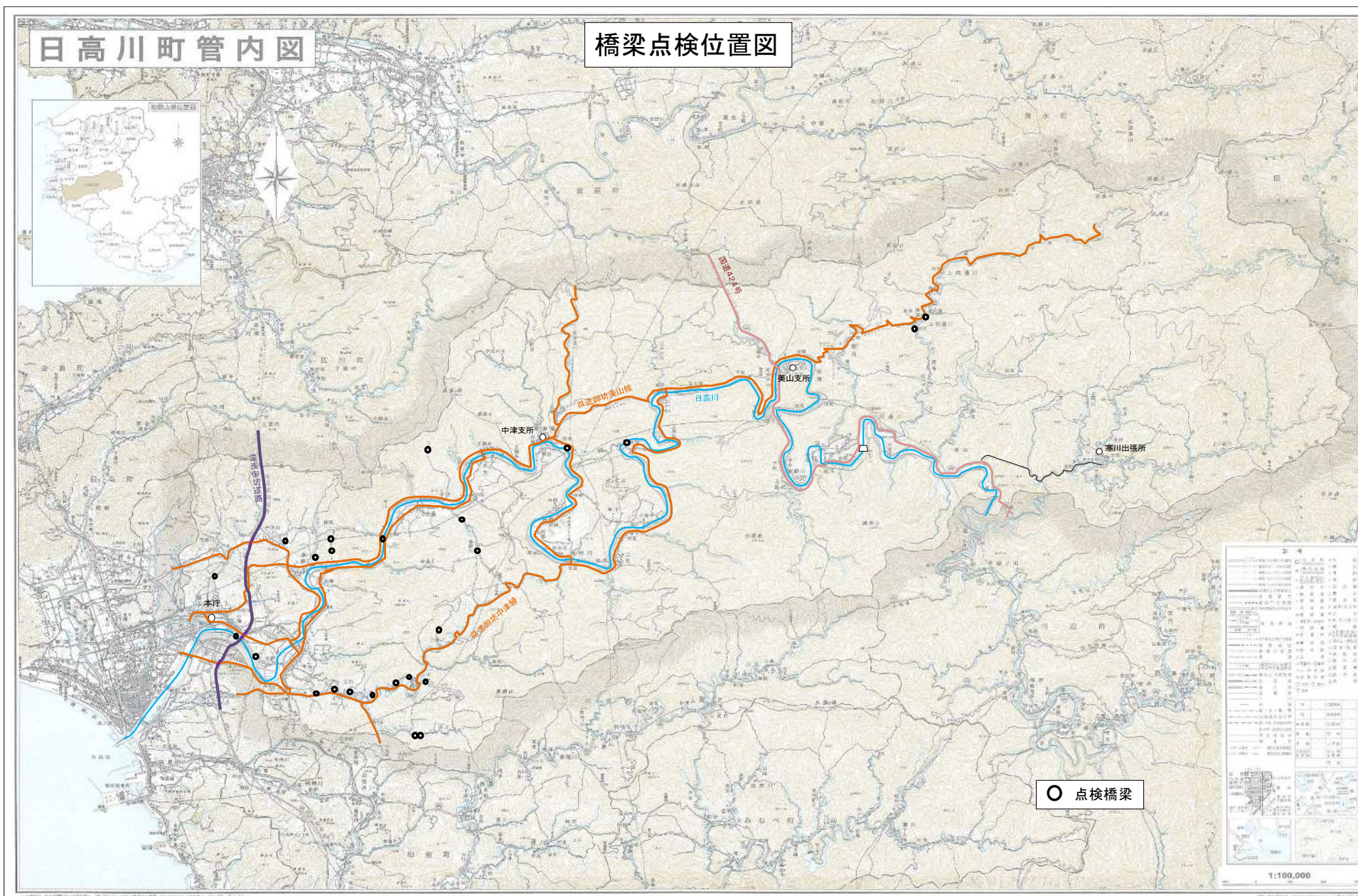
成果品項目	提出部数	大きさ	備 考
点検データ	1 部	DVD または CD-R	報告書に納入
報告書	1 部	A 4	キングファイル製本

※点検データ：損傷図、写真、点検結果、修正橋梁台帳

（損傷図（CADデータ、写真（jpg）のオリジナルデータを含む）

日高川町管内図

橋梁点検位置図



【設計業務】新技術等活用の検討結果について

選択	—	入力	入力	入力	入力	選択	入力	入力	入力	入力	入力	入力	
契約情報				施設情報		新技術等の採用	「新技術等の採用」欄で○を記入した場合		新技術等活用の検討結果				備考
建設部	番号	工事番号	工事名	施設名称	路線名		番号 (点検支援技術能力 タログ：技術番号) (NETIS：登録番号)	技術名	「新技術等の採用」欄で×を記入した場合			採用した工法（従来工法等）	
									検討した新技術等				
								番号 (点検支援技術能力 タログ：技術番号) (NETIS：登録番号)	技術名	新技術等を採用しなかった理由	技術名		
〇〇	記入例	令和〇年度道保メンテ第〇〇〇-〇号-〇	〇〇線（〇〇橋）道路メンテナンス設計業務	〇〇橋	〇〇線	○（採用した）	〇〇-〇〇	〇〇	—				
〇〇	記入例	令和〇年度道保メンテ第〇〇〇-〇号-〇	〇〇線（〇〇トンネル）道路メンテナンス設計業務	〇〇トンネル	〇〇線	×（採用しなかった）	—	—	〇〇-〇〇	〇〇		〇〇工法	
	1												
	2												
	3												
	4												
	5												
	6												
	7												
	8												
	9												
	10												
	11												
	12												
	13												
	14												
	15												
	16												
	17												
	18												
	19												
	20												
	21												
	22												
	23												
	24												
	25												
	26												
	27												
	28												
	29												
	30												
	31												
	32												
	33												
	34												
	35												
	36												
	37												
	38												
	39												
	40												

対象施設毎に記入願います

番号：1

建設部名：

路線名	県道 ●●●線
施設名	●●●橋

●新技術等を採用した場合

「コスト縮減」「事業の効率化」などについて、在来工法との比較結果をとりまとめた資料の添付をお願いします。

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度		施設ID
				経度		
(フリガナ)						
管理者名	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	

道路橋毎の健全性の診断

橋梁諸元

告示に基づく健全性の診断の区分	架設年度	橋長	幅員	橋梁形式		
				上部構造	下部構造	基礎構造

※架設年度が不明の場合は「不明」と記入すること。

技術的な評価結果

定期点検実施年月日

定期点検者

	想定する状況							
	活荷重		地震		豪雨・出水		その他	
橋(全体として)							()	
上部構造		写真番号		写真番号		写真番号	()	写真番号 10
下部構造		写真番号		写真番号		写真番号 9	()	写真番号
上下部接続部		写真番号		写真番号		写真番号	()	写真番号
その他(フェールセーフ)		写真番号		写真番号		写真番号	()	写真番号
その他(伸縮装置)		写真番号		写真番号		写真番号	()	写真番号

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

起点側		終点側
	<p>概ねこのセル枠内の上に全景写真の「画像ファイル」を挿入する。 (コピー＆ペーストは使わず、「挿入」→「画像」で貼付け (セルの上に配置)て下さい)</p> <p>なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。</p> <p>また、<u>画像のオブジェクト名を「全景写真」として下さい。</u></p>	

状況写真(様式1に対応する状態の記録)

○上部構造、下部構造、上下部接続部、その他について技術的な評価の根拠となる写真を添付すること。

施設ID		0		定期点検実施年月日		0		定期点検者		0		0	
構成要素						構成要素							
想定する状況			構成要素の状態			想定する状況			構成要素の状態				
<p>概ねこのセル枠内に全景写真の「画像ファイル」を挿入する。 (コピー＆ペーストは使わず、「挿入」→「画像」で貼付け (セルの上に配置)して下さい) なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。</p> <p>画像のオブジェクト名を「写真01(数字は半角)」として下さい。</p>						<p>概ねこのセル枠内に全景写真の「画像ファイル」を挿入する。 (コピー＆ペーストは使わず、「挿入」→「画像」で貼付け (セルの上に配置)して下さい) なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。</p> <p>画像のオブジェクト名を「写真02(数字は半角)」として下さい。</p>							
写真番号		1		径間				部材番号					
備考		(適宜、特記事項など)											
構成要素						構成要素							
想定する状況			構成要素の状態			想定する状況			構成要素の状態				
<p>概ねこのセル枠内に全景写真の「画像ファイル」を挿入する。 (コピー＆ペーストは使わず、「挿入」→「画像」で貼付け (セルの上に配置)して下さい) なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。</p> <p>画像のオブジェクト名を「写真03(数字は半角)」として下さい。</p>						<p>概ねこのセル枠内に全景写真の「画像ファイル」を挿入する。 (コピー＆ペーストは使わず、「挿入」→「画像」で貼付け (セルの上に配置)して下さい) なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。</p> <p>画像のオブジェクト名を「写真04(数字は半角)」として下さい。</p>							
写真番号		3		径間				部材番号					
備考		(適宜、特記事項など)											
写真番号		4		径間				部材番号					
備考		(適宜、特記事項など)											

状況写真(様式1に対応する状態の記録)
○上部構造、下部構造、上下部接続部、その他について技術的な評価の根拠となる写真を添付すること。

施設ID		0		定期点検実施年月日		0		定期点検者		0		0	
構成要素						構成要素							
想定する状況		構成要素の状態				想定する状況		構成要素の状態					
<p>概ねこのセル枠内に全景写真の「画像ファイル」を挿入する。 (コピー＆ペーストは使わず、「挿入」→「画像」で貼付け (セルの上に配置)して下さい) なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。</p> <p>画像のオブジェクト名を「写真05(数字は半角)」として下さい。</p>						<p>概ねこのセル枠内に全景写真の「画像ファイル」を挿入する。 (コピー＆ペーストは使わず、「挿入」→「画像」で貼付け (セルの上に配置)して下さい) なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。</p> <p>画像のオブジェクト名を「写真06(数字は半角)」として下さい。</p>							
写真番号		5		径間				部材番号					
備考		(適宜、特記事項など)											
写真番号		6		径間				部材番号					
備考		(適宜、特記事項など)											

特定事象の有無、健全性の診断に関する所見

	施設ID	0	定期点検実施年月日				0	定期点検者	0	0
該当部位	特定事象の有無 (有もしくは無)						健全性の診断の区分の前提	特記事項 (第三者被害の可能性に対する 応急措置の実施の有無等)		
	疲労	塩害	アルカリ 骨材反 応	防食機 能の低 下	洗掘	その他				
上部構造					—					
下部構造	—			—						
上下部接続部		—	—		—					
その他(フェールセーフ)	—				—					
その他(伸縮装置)		—	—	—	—					

所見	(適宜、所見を記入)
----	------------

点検記録様式（その1）
橋梁の諸元と定期点検総合結果（1／3）

起点側緯度30.508333
経度30.508333

終点側緯度—
経度—

施設ID0

フリガナ 橋 梁 名	-			路 線 名	-			管理者	和歌山県		橋梁コード		0	
所 在 地	自	和歌山県日高郡			距 離 標	自	—		日高川町	調書更新年月日		1900年1月0日		
	至	和歌山県日高郡				至	—		建設課					

供用開始日	0	橋長	0	活荷重・等級	0			適用示方書		0						
上部構造形式	0			幅員	全 幅 員	0.00	地覆幅	歩道幅	車道幅・車線		車道幅・車線		歩道幅	地覆幅	中央帯	中央 分離帯
					有 効 幅 員	0.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
				代替路の有無	0	自専道or一般道		一般道		緊急輸送道路		0		交通 条件	調 査 年	—
下部構造形式	0			路下条件	0			占用物件(名称)		0		交 通 量	— 台			
				備考											大型混入率	— %
基礎形式	0														荷重 制限	実 施 年
				制 限 重 量	0 t											

定期点検総合結果

告示に基づく 健全性の診断 の区分	対応や調査の必要性	
	E	S1
	M	S2

定期点検総合結果に関する補足

町様式

点検記録様式（その1）
橋梁の諸元と定期点検総合結果（2／3）

起点側	緯度	30.508333	終点側	緯度	—	施設ID	0
	経度	30.508333		経度	—		

フリガナ 橋 梁 名	— —	路 線 名	—	管理者	和歌山県日高川町建設課	橋梁コード	0
---------------	--------	-------	---	-----	-------------	-------	---

性能の評価結果

性能の評価結果			現地確認年月日	1900年1月0日	橋梁診断員（所属・氏名）		
	想定する状況における各構成要素等の状態の評価						
	活荷重		地震		豪雨・出水		その他
橋（全体として）							
上部構造		写真番号		写真番号		写真番号	写真番号
上下部接続部		写真番号		写真番号		写真番号	写真番号
下部構造		写真番号		写真番号		写真番号	写真番号
その他（フェールセーフ）		写真番号		写真番号		写真番号	写真番号
その他（伸縮装置）		写真番号		写真番号		写真番号	写真番号

橋梁診断員所見	
---------	--

起点側	緯度	30.508333	終点側	緯度	—	施設ID	0
	経度	30.508333		経度	—		

フリガナ 橋 梁 名	— —	路 線 名	—	管理者	和歌山県日高川町建設課	橋梁コード	0
---------------	--------	-------	---	-----	-------------	-------	---

特定事象の有無、健全性の診断に関する所見

特定事象の有無、健全性の診断に関する所見					現地確認年月日	1900年1月0日	橋梁診断員（所属、氏名）	
該当部位	特定事象の有無 （有もしくは無）						健全性の診断の区分の前提	特記事項 （第三者被害の可能性に対する応急措置の実施の有無等）
	疲労	塩害	アルカリ 骨材反応	防食機能 の低下	洗掘	その他		
上部構造					－			
下部構造				－				
上下部接続部		－	－		－			
その他（フェールセーフ）	－				－			
その他（伸縮装置）		－	－	－	－			

所見	(適宜、所見を記入)
----	------------

点検記録様式(その2)		径間番号				起点側		緯度	30.508333	終点側		緯度	—	施設ID	0
橋梁位置図						経度		30.508333	経度		—				
フリガナ	0	路線名		—		管理者		和歌山県日高川町建設課				橋梁コード		0	
橋梁名	0														
		現地確認年月日		1900年1月0日		橋梁検査員									
<div>なるべく地理院地図を貼って下さい。 橋梁の緯度経度を入力して検索したら橋梁の位置が表示されますので その画像をトリミングしてはっつけて下さい。</div>															

点検記録様式(その3) 径間別一般図	径 間 番 号		起点側	緯度	30.508333	終点側	緯度	—	施設ID	0
				経度	30.508333		経度	—		

フリガナ	0	路 線 名	-	管理者	和歌山県日高川町建設課	橋梁コード	0
橋 梁 名	0						

現地確認年月日		1900年1月0日	橋梁検査員	
---------	--	-----------	-------	--

【全体図】

【一般図】

点検記録様式(その6) 要素番号図及び部材番号図		径 間 番 号		起点側	緯度	30.508333	終点側	緯度	—	施設ID	0
				経度	30.508333	経度		—			
フリガナ	—	路 線 名	—	管理者	和歌山県日高川町建設課			橋梁コード	0		
橋 梁 名	—										
		現地確認年月日		1900年1月0日		橋梁検査員					
要素番号図及び部材番号図											

点検記録様式（その８－１）				起点側		緯度	30.508333	終点側		緯度	－	施設ID	0		
点検記録様式（その１）に対応する状態の記録				経度		30.508333	経度		－						
フリガナ	0	路 線 名	－	管理者	和歌山県日高川町建設課	橋梁コード	0								
橋 梁 名	0														
現地確認年月日				1900年1月0日				橋梁診断員							
構成要素						構成要素									
想定する状況				構成要素の状態				想定する状況				構成要素の状態			
<p>概ねこのセル枠内に全景写真の「画像ファイル」を挿入する。 （コピー＆ペーストは使わず、「挿入」→「画像」で貼付け （セルの上に配置）して下さい） なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。</p> <p>画像のオブジェクト名を「写真01(数字は半角)」として下さい。</p>								<p>概ねこのセル枠内に全景写真の「画像ファイル」を挿入する。 （コピー＆ペーストは使わず、「挿入」→「画像」で貼付け （セルの上に配置）して下さい） なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。</p> <p>画像のオブジェクト名を「写真02(数字は半角)」として下さい。</p>							
写真番号	1	径間		部材番号		写真番号	2	径間		部材番号					
備考	(適宜、特記事項など)														
構成要素						構成要素									
想定する状況				構成要素の状態				想定する状況				構成要素の状態			
<p>概ねこのセル枠内に全景写真の「画像ファイル」を挿入する。 （コピー＆ペーストは使わず、「挿入」→「画像」で貼付け （セルの上に配置）して下さい） なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。</p> <p>画像のオブジェクト名を「写真03(数字は半角)」として下さい。</p>								<p>概ねこのセル枠内に全景写真の「画像ファイル」を挿入する。 （コピー＆ペーストは使わず、「挿入」→「画像」で貼付け （セルの上に配置）して下さい） なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。</p> <p>画像のオブジェクト名を「写真04(数字は半角)」として下さい。</p>							
写真番号	3	径間		部材番号		写真番号	4	径間		部材番号					
備考	(適宜、特記事項など)														

データ記録様式(その1)
データ記録時の現地状況写真

起点側	緯度	30.508333	終点側	緯度	—	施設ID	0
	経度	30.508333		経度	—		

フリガナ 橋 梁 名	- -	路 線 名	-	管理者	和歌山県日高川町建設課	橋梁コード	0
---------------	--------	-------	---	-----	-------------	-------	---

				現地確認年月日		1900年1月0日		橋梁検査員				
現 地 状 況 写 真	写真番号		径間番号		写真番号		径間番号		写真番号		径間番号	
	メモ (必要に応じて)				メモ (必要に応じて)				メモ (必要に応じて)			
	写真番号		径間番号		写真番号		径間番号		写真番号		径間番号	
	メモ (必要に応じて)				メモ (必要に応じて)				メモ (必要に応じて)			

データ記録様式(その3-1) 損傷図	径間番号		起点側	緯度	30.508333	終点側	緯度	—	施設ID	0
				経度	30.508333		経度	—		

フリガナ 橋梁名	- -	路線名	-	管理者	和歌山県日高川町建設課	橋梁コード	0
-------------	--------	-----	---	-----	-------------	-------	---








現地確認年月日	1900年1月0日	橋梁検査員	
---------	-----------	-------	--

損傷図

損傷内容の凡例

部材番号
損傷の名称：損傷区分→対策区分
写真番号

損傷の判例

損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		遊離石灰	
剥離		漏水	
鉄筋露出		その他	
うき			

データ記録様式(その3-1) 損傷図	径間番号		起点側	緯度	30.508333	終点側	緯度	—	施設ID	0
				経度	30.508333		経度	—		

フリガナ 橋梁名	- -	路線名	-	管理者	和歌山県日高川町建設課	橋梁コード	0
-------------	--------	-----	---	-----	-------------	-------	---








		現地確認年月日	1900年1月0日	橋梁検査員	
--	--	---------	-----------	-------	--

損 傷 図				

損傷内容の凡例

部材番号
損傷の名称：損傷区分→対策区分
写真番号

損傷の判例

損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		遊離石灰	
剥離		漏水	
鉄筋露出		その他	
うき			

データ記録様式(その3-2) 損傷写真				径 間 番 号				起点側		緯度	30.508333	終点側		緯度	—	施設ID		0	
		経度		30.508333						経度				—				0	
フリガナ 橋 梁 名		-		-		路 線 名		-		管理者		和歌山県日高川町建設課		橋梁コード		0			
備考																			
										現地確認年月日		1900年1月0日			橋梁検査員				
損 傷 写 真	写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日								
	部材名		要素番号		部材名		要素番号		部材名		要素番号								
	損傷の種類		損傷程度		損傷の種類		損傷程度		損傷の種類		損傷程度								
				前回損傷程度				前回損傷程度				前回損傷程度							
				メモ				メモ											
				メモ															
				対策区分				対策区分				対策区分							
				健全度				健全度											
				健全度				健全度											
				健全度															
	写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日		写真番号		撮影年月日								
	部材名		要素番号		部材名		要素番号		部材名		要素番号								
損傷の種類		損傷程度		損傷の種類		損傷程度		損傷の種類		損傷程度									
			前回損傷程度				前回損傷程度				前回損傷程度								
			メモ				メモ												
			メモ																
			対策区分				対策区分				対策区分								
			健全度				健全度												
			健全度				健全度												
			健全度																